

俳句を作ろう

俳句は、身近な生活の中で生まれた感動を季節感に託して表現する短い詩です。次にあげる約束をふまえて俳句を作ってみましょう。

- ・ 音数は五・七・五の十七音が基本。
- ・ 季語（季節を表す言葉）は、一句に一つが原則。

季語

どの子にも

涼しく風の

吹く日かな

上の句（五音）

中の句（七音）

下の句（五音）

（飯田龍太）

1 句材を探そう

家族の様子、部活の印象、学校行事や旅行の思い出など、身の回りから題材を探しましょう。具体的な場面、印象を思い出しましょう。教室から見える風景や友達の様子も俳句の材料になります。遠足や写生会なども句材を得るよいチャンスです。

2 取材しながらメモをとろう

心に浮かんだ場面や感動を書きとめましょう。断片的でかまいません。ひらめいた言葉や語句を記録しましょう。

3 メモをもとに、音数に合わせながら句を作ろう

七夕飾り。たくさんさんの願い事が書かれた短冊のさがる笹竹に、自分の夢を託した短冊を糸で結びつけた。頼りなげに見える一本の糸だけれど、僕の夢をしっかりとつなぎとめてくれよ。

笹の葉に糸一本の我の夢

（文集 「こだま」より）

(1) むだな言葉を省き、単純化する

父の王詰めてうれしき夏の夜

（文集 「こだま」より）

夏休み。いつもは仕事で忙しい父も、今夜は久しぶりに将棋に付き合ってくれたのでしよう。「父の王」という五音の中に、父と将棋をさしている様子と、その勝負の行方までピシリと表現されています。句全体が単純明快で、将棋で父を負かした爽快さと、久しぶりに父とのんびり過ごす夏の夜の喜びがストレートに伝わってきます。

(2) 物に即した客観的な表現を心がける

桜道車は時速二十キロ

（文章 「こだま」より）

家族でのドライブでしょうか。車は満開の桜並木の下にさしかかりました。その桜の見事さを少しでもゆっくりと味わおうと、車もノロノロ走行です。「見事」とか「みとれる」といった主観的な言葉を使わず、「時速二十キロ」としたことで、その時の思いがより鮮明に伝わってきます。

(3) 発見を大切に

かたつむりあそこにここに銀の道

(文集「こだま」より)

動物や虫を題材にした俳句は多くありますが、この句は小さなかたつむりの、その通った跡に着目した点におもしろみがあります。しかもその跡は梅雨の晴れ間の日差しにキラキラと光っています。日常のちよつとした発見を見過ごさずに一句の中に見事に表現しています。

(4) 次のことにも注意する

- ・ 何度も声に出して読み、リズムを整えましょう。
- ・ 表記を工夫し、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字など、全体のバランスを考え、句にふさわしいものにしましょう。
- ・ 何度も推敲します。特に助詞の使い方に注意しましょう。「も」にするか、「は」にするかひとつで作品がまったく変わる場合があります。順序を変えてみることも大切です。また、倒置法や比喻法、擬人法、体言止めなども大いに活用しましょう。

- ・ 「歳時記」を活用し、適切な季語を探します。句の内容にふさわしい季語を見つけることは、句の内容を豊かにするに欠かせないことです。

◎ それぞれの季節を表す季語を書き出してみましょう。

季節	新年	春	夏	秋	冬
季語	年賀状 初夢	つばめ 菜の花	五月雨 清水	すすき 七夕	大根 咳

「メモと俳句」	
年 組	番氏名

※文集「こだま」の俳句を読んで参考にしよう。